

業においては時間数が少ないので、簡単に体にあう襦の入れ方の基礎を、原型を用いて教授したいと考えているのである。現在までの経験上、一人一人肩斜線を補正し、切込み点を見わけてやらねばならなかった。それで各人の採寸から簡単に割出せる方法はないものかと希望したが、この研究を始める動機となった。

2. 今回は、

- (1) 肩線の延長の移動と肩傾斜の関係
 - (2) 肩線の移動と前幅、後幅との関係
 - (3) 切込みの寸法と運動量との関係
- などについて実験考察した結果を報告する。

B-42 袖襦の基本的研究

池坊学園短大 有本 翠
○安井 和子
蜂屋 俊子
柴田 雅代

1. 襦入袖を制作した場合、または街頭などで着用している状態を観察した場合、美しくならかに流すべく工夫されているはずの線に、美しさをそこねる皺が多くでていることがあり、また、折角襦を入れているにもかかわらず、運動量が少なく、電車、バスの吊革さえも持ちにくいようなのをよく見かけることがある。短大の授